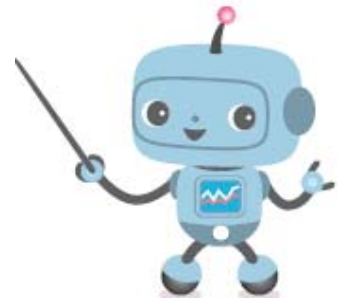


※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

つみたてNISAの受付スタート!

2017年10月2日から積み立て投資を前提とした「つみたてNISA(少額投資非課税制度)」の口座開設の受付が開始した(*2018年1月から投資開始)。 つみたてNISAで対象となる投資信託は受付開始の10月2日時点で公募投信103本あり、最新10月5日時点では公募投信106本(個別ファンド名など詳細および更新情報は金融庁HP参照~URLは後述[参考ホームページ]①)。

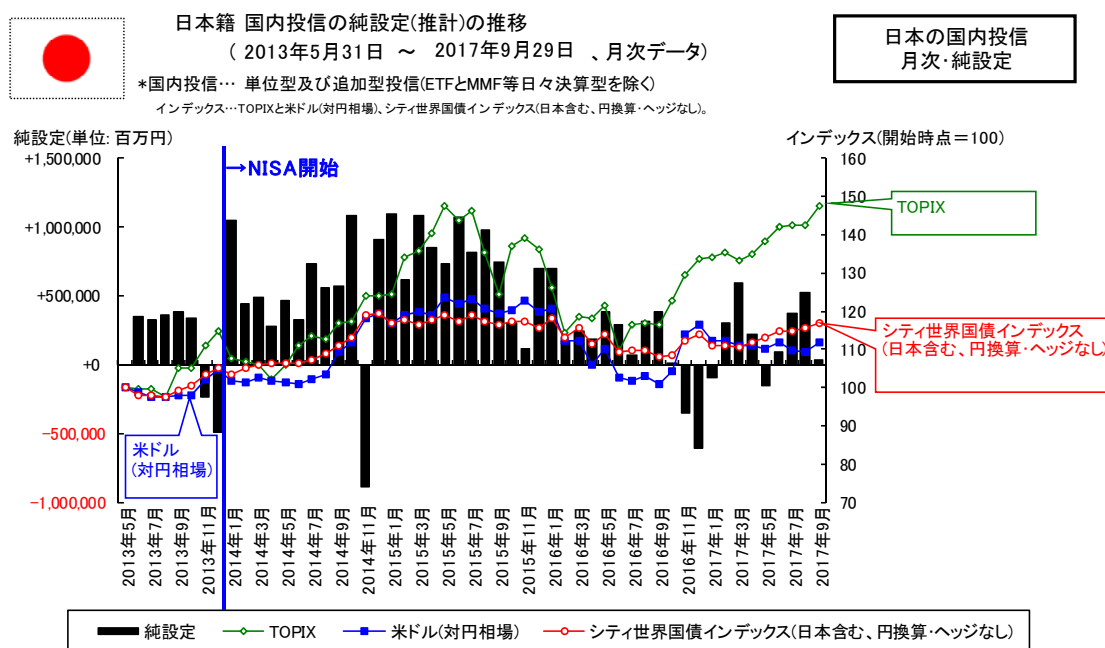


金融庁の
つみたてNISAキャラクター
「最新つみたてロボット
T-213(ニイサ)」

つみたてNISAの対象商品が投資信託だけで100本以上あり、何に投資すべきか悩む所、現行の一般NISAでどのような投資が行われたのかを見る。一般NISAの投資家を既存投資家と投資未経験者(新規投資家)とに分け、既存投資家は投信全体の動向で代替、投資の未経験者(新規投資家)はNISA向けファンド(後述※1参照)で代替する。投信を見るのは、NISA買付額の6割が投信となっているからである(*NISA開始の2014年1月から2017年3月までの買付総額は10兆5469億円で、うち、投信60.6%、上場株式36.8%、ETF1.6%、REIT1.0%~URLは後述[参考ホームページ]②)。

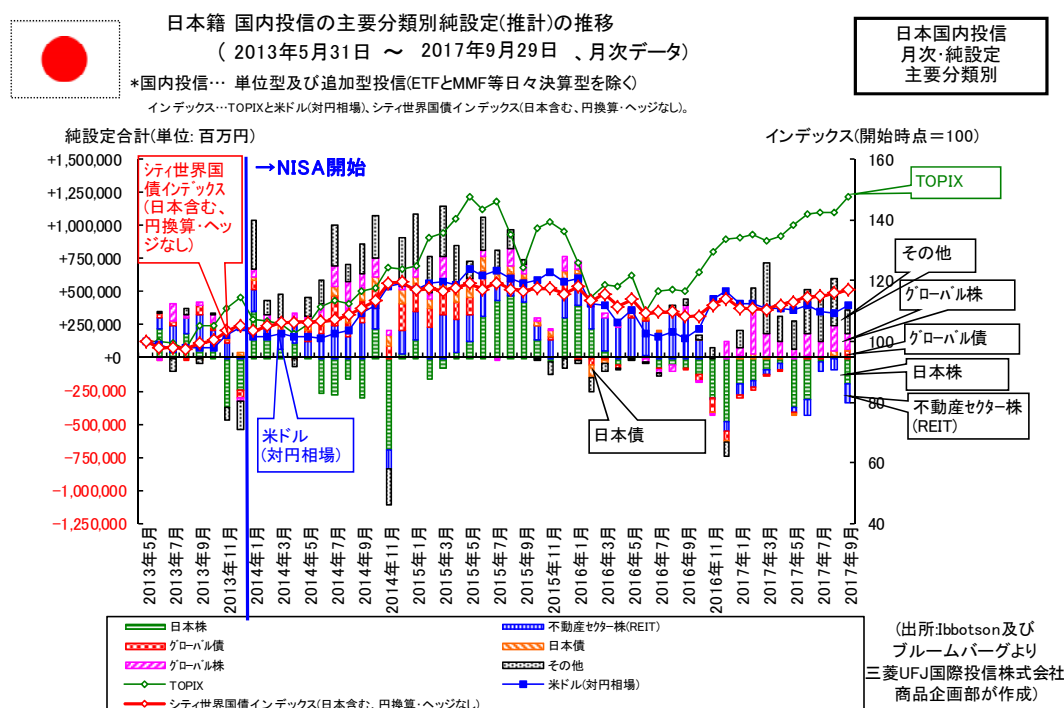
2017年9月にNISA既存投資家はグローバル株やアセットアロケーションが人気

まずNISAの既存投資家を示す投信全体の純設定(推計)は2017年9月に+318億円と、4カ月連続の資金純流入となるものの、前月8月の+5202億円から急減、2017年5月以来の低調さとなった。



(出所: プールマーク、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

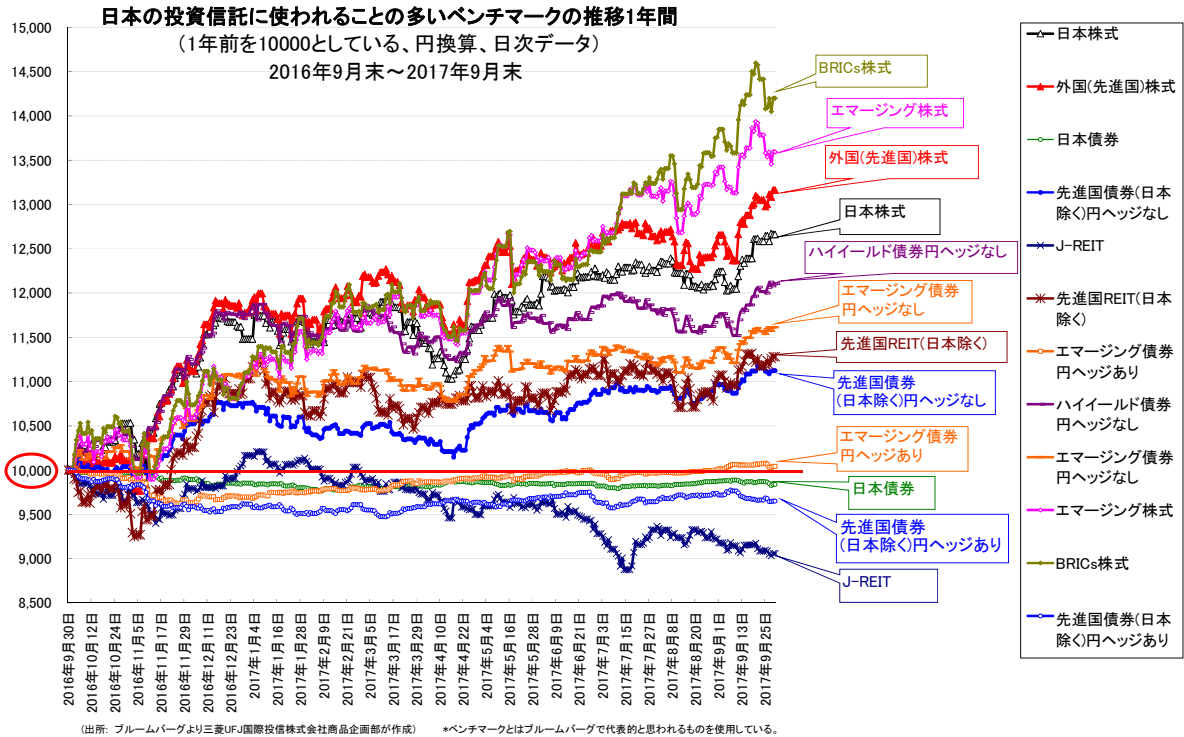
4カ月ぶりの低調となった2017年9月の純設定を投資対象(主要分類)別で見ると、**2017年9月に最も純設定の大きかったのはグローバル株、次いで、アセットアロケーション柔軟型、グローバル債、エマージング債、その他アロケーション**だった(下記グラフ参照 *主要分類…モーニングスターによる分類で2016年12月末の純資産の大きい上位5分類。アセットアロケーション型、エマージング債は「その他」に含まれる)。グローバル株は6月から4カ月連続1位で、8月2位で7月3位だったインド株は6位、アセットアロケーション柔軟型が8月3位だが、9月は2位に、3位はグローバル債だった。純設定が最も大きかったグローバル株は9月に+1197億円と、10カ月連続の純流入となり、既に2017年は9月までで+1.4兆円と昨年2017年(+3042億円)の4倍超に達している。



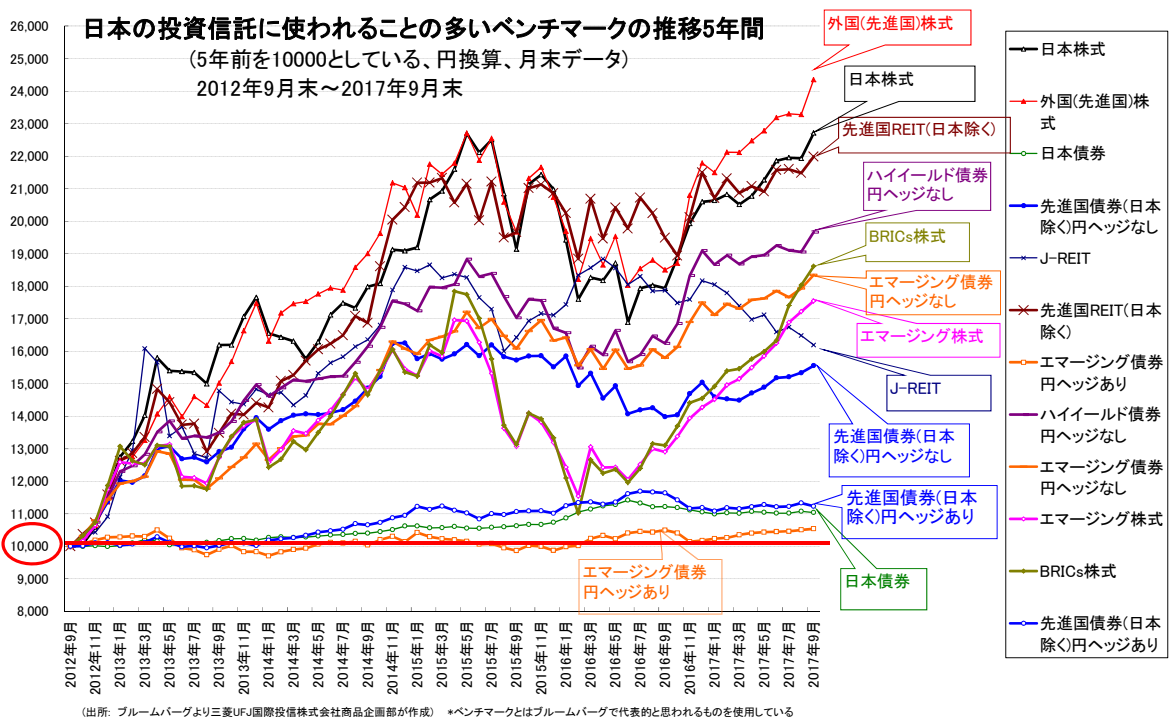
グローバル株について、2番目に純設定が大きかったアセットアロケーション柔軟型は、9月に+608億円と、前月8月(+640億円)とほぼ同水準となり10カ月連続純流入。3番目に大きかったグローバル債は9月に+580億円と4カ月連続の純流入で、2016年5月(+606億円)以来1年4カ月ぶりの大きな純流入。一方、日本株は前月8月(+247億円)に14ヶ月ぶりの純流入となったが、9月は-1945億円と再び純流出となった。

日本の投信に使われることの多いベンチマークのパフォーマンス推移を見たところ、次頁グラフの通り、1年のパフォーマンスの好い順に、BRICs株式、エマージング株式、先進国株式、日本株式、ハイイールド債円ヘッジなし、エマージング債、先進国REITとなっている(*グラフは1年前を10000としている、円換算、日次データ)。

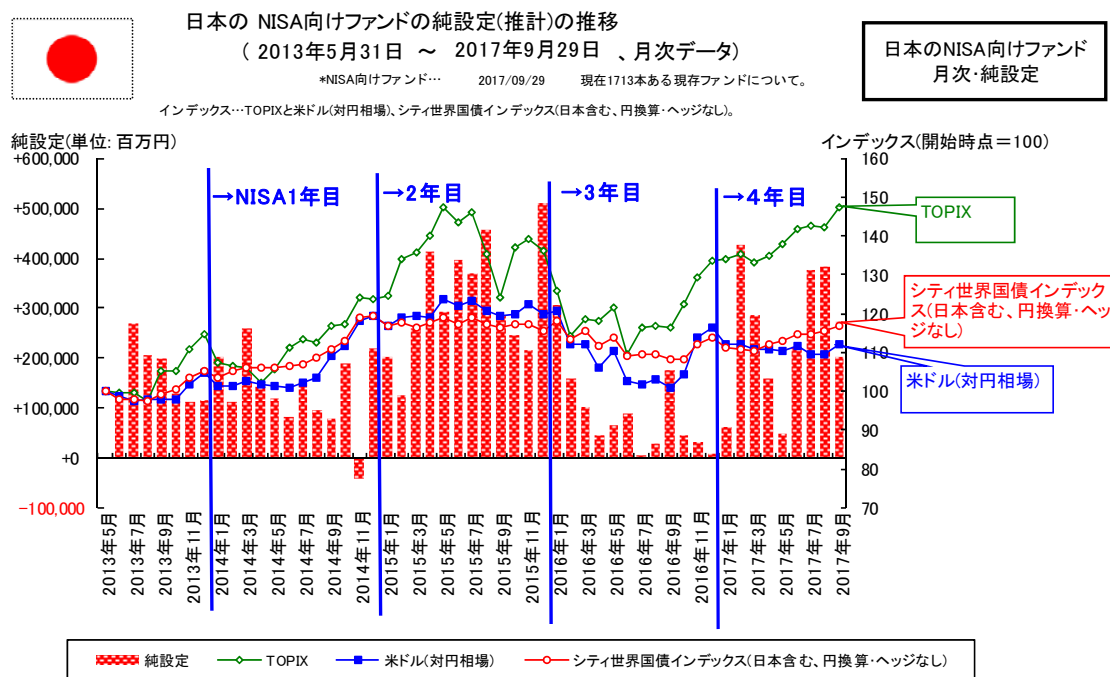
前月同様、1年のパフォーマンスの最も好いBRICs およびエマージング株式は、2017年3月末からの半年や6月末からの3カ月でも次頁グラフのベンチマークで最も好いパフォーマンスだったが、足元9月の1カ月で見れば、上から4番目および7番目となっている。新興国株式市場については、2017年9月に過去最高を更新する中、「ここにきて新興国への資金流入が減速する兆しもある。インドとインドネシアでは最高値を塗り替えた8月以降、外国人投資家が売り越しに回り、なお強気の国内投資家が相場を下支えする構図になった。」(2017年9月17日付日本経済新聞電子版~URLは後述[参考ホームページ]③)と言われている。



下記グラフは5年のパフォーマンスである。パフォーマンスの好い順に、先進国株式、日本株式、先進国REIT、ハイイルド債円ヘッジなし、BRICs株式、エマージング債券となっている(*グラフは5年前を10000としている、円換算、月末データ)。先進国株式のパフォーマンスは、5年では下記グラフのベンチマークで最も好く、3年では先進国REITに次いで2番目、1年では3番目、2017年9月の1カ月では最も好いという安定的なパフォーマンスの好きがグローバル株への人気につながっている様に見える。



2017年9月にNISA新規投資家はアセットアロケーションやグローバル債・株が人気
次に新規投資家を示すNISA向けファンドの純設定を見る。**既存投資家の動向を示す投信全体では4カ月連続の純流入となったが、NISA向けファンドの純設定は、最新2017年9月に+2032億円と前月8月(+3830億円)を下回るものの、2014年12月以降2年10カ月連続の純流入である。**



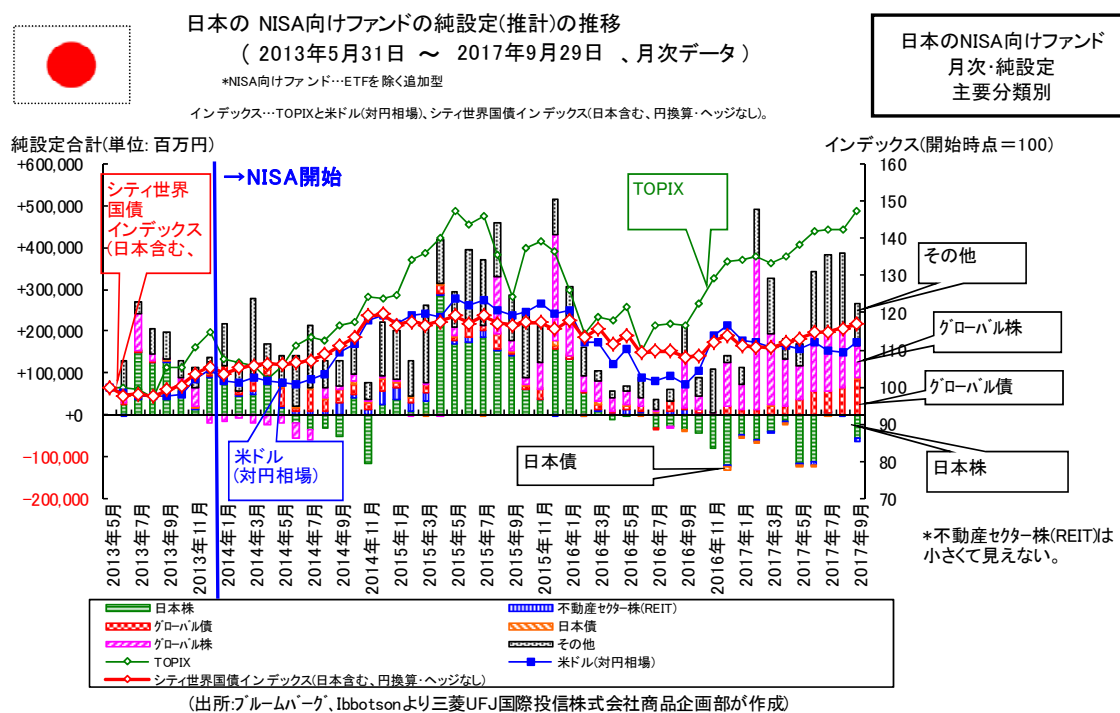
(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

※1: 「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ]④)、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA向け」、「NISA専用」、「NISAで選ぶ」、「NISAにおすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。尚、2013年4月以降と言うのは、NISAが含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA向けファンド」を抽出した所、2017年9月29日時点で1739本となった。

投資対象(主要分類)別で見ると、**2017年9月の純設定1位はアセットアロケーション柔軟型(8月2位)、2位はグローバル債(8月3位)、3位はグローバル株(8月まで7カ月連続1位)、4位はエマージング株(8月4位)、5位は日本マネー・プール(8月35位)だった**(次頁グラフ参照。アセットアロケーション型とエマージング株、日本マネー・プールは「その他」に含まれる)。

投信全体ではグローバル株が純設定最大だったが、NISA向けファンドでは2017年9月にアセットアロケーション柔軟型が純設定最大だった。NISA導入開始以来4年9カ月連続純流入である。

2番目に純設定の大きかったのは、グローバル債で、2016年7月を除きNISA導入以来連続の純流入で、2017年以降、純流入加速傾向にある(2017年9月+827億円←8月+644億円←7月+538億円←6月+566億円←5月+358億円)。グローバル株は2016年9月から13カ月連続の純流入だが、9月は+774億円と、2017年1月以来の小さな純流入となった。一方、投信全体では2カ月ぶりに純流出となった日本株は、NISA向けでは9月に-564億円と2カ月連続の純流出となった。



以上、一般NISA、ジュニアNISA、そして来年から投資の始まるつみたてNISAを検討する人の参考になれば幸いです。

以上

[参考ホームページ]

- ①金融庁「つみたてNISA 対象商品届出一覧」(2017年10月以降随時更新)…「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20170614-2.html>」、金融庁のキャラクター「最新つみたてロボット T-213(ニイサ)…「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20170614-2/14.pdf>」、
- ②2017年7月7日付金融庁「NISA・ジュニアNISA口座の開設・利用状況調査」(平成29年3月末時点)…「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20170707-1.html>」、
- ③2017年9月17日付日本経済新聞電子版「新興国株 最高値更新相次ぐ 東南アなど、米低金利で資金流入」…「https://www.nikkei.com/article/DGXLASGM16H2A_X10C17A9FF8000/」、
- ④2014年1月8日付投資信託協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」…「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。